



(写真) マドゥロ大統領 X “与党国会・野党国会 2024年の国会議長・副議長らを任命”

2024年1月5日(金)

政治

「与党国会 24年の国会議長・副議長らを決定
～4年連続でホルヘ・ロドリゲスが国会議長～」

「野党国会3役は2023年から変更なし」

「ロドリゲス議長 野党グループをけん制」

経済

「印 ベネズエラからコークス54.6万トン購入
～インドとベネズエラ エネルギー関係強化～」

「DESA ラ米・カリブ海の経済見通しを公表」

社会

「新年 メリダ州ロープウェーが盛況」

24年1月6～7日(土・日)

政治

「政治評論家の2024年の政治シナリオ
～大統領選の前倒し実施は困難か～」

経済

「加 NSE 英投資会社株購入でベネ事業に参画」

「墨 ベネズエラとのエネルギー関係強化を模索」

「ベネズエラ漁業 前年比13%増」

「電子商取引 24年目標は前年比100%増」

社会

「プロ野球 乙坂智選手 ベネズエラでプレー」

「カラカス 世界で3番目に危険な都市?」

2024年1月5日（金曜）

政治

「与党国会 24年の国会議長・副議長らを決定
～4年連続でホルヘ・ロドリゲスが国会議長～」

ベネズエラ国会は、「国会議長」「第1副議長」「第2副議長」の3役が毎年1月5日に選ばれる。

1月5日 与党国会は24年の国会3役を決定した。

国会議長は、ホルヘ・ロドリゲス氏が再任。

ロドリゲス議長は、与党国会が発足した2021年から4年連続で国会議長を務める。

ロドリゲス議長は、与野党協議における与党協議団の代表も兼務しており、引き続き与党内で最も影響力の大きな人物の1人ということになる。



(写真) 外務省

また、第1副議長はペドロ・インファンテ議員（元スポーツ相）。



第2副議長はアメリカ・ペレス議員が就任した。



第1副議長、第2副議長の影響力は国会議長と比べて格段に低く、彼らがそこまでメディアに登場することはないだろう。

なお、「国会秘書官」として、マリア・アレハンドラ・エルナンデス氏が再任。「副秘書官」はホセ・モリナ氏が就任した。

国会議員の任期は5年間。現国会議員は2026年1月に任期が終わるため、通常であれば2025年中に国会議員選が行われることになる。

「野党国会3役は2023年から変更なし」

与党国会は2020年に行われた国会議員選を受けて発足したが、主要野党は20年の国会議員選に参加しておらず、20年の国会議員選を認めていない。

そのため野党側は「ベネズエラの正当な国会は2015年の国会議員選で発足した野党多数派の国会」とのスタンスを現在も維持している。

つまり、現在ベネズエラには21年に発足した与党多数派の国会と16年に発足した野党多数派の国会の2つの国会が存在している。

この野党多数派の国会も1月5日に国会3役を決定。

野党国会は、ディノラ・フィゲラ国会議長（第一正義党（PJ）所属）が再任。

第1副議長もマリアネラ・フェルナンデス議員（新時代党（UNT））が再任。

第2副議長もアウリステラ・バスケス議員（行動民主党（AD））が再任。

つまり、2023年に選ばれた3役が24年も継続することになる。

主要野党はPJ、UNT、ADに加えて「大衆意思党（VP）」の4党で組織される。

VPはグアイド元暫定大統領が所属していた政党で、4党の中で過激派に分類されるが、今回、国会3役に選ばれたPJ、UNT、ADは交渉を重視する政党。24年も与野党協議の継続を念頭に置いた人事と言える。

なお、フィゲラ議長自身は、スペインに居住しており、フェルナンデス第1副議長は米国に居住、バスケス第2副議長はスペインに居住している。

3役の居住地を見ても分かる通り、野党国会はベネズエラ国内での活動実態はなく、外国での活動が基本になる。



（写真）野党国会

「ロドリゲス議長 野党グループをけん制」

1月5日 ロドリゲス国会議長は、国会で年初の演説を実施。

野党に対して、「外国で凍結されているベネズエラ政府資産を使用した場合、バルバドス合意を違反したことになる」「同資産を使用した場合は、ベネズエラの法律に則り処罰される」とけん制した。

「我々との協議を求め、合意文書に署名したベネズエラ国内の右派政党に対してメッセージを送る。

もしベネズエラ国家の資産を不当に搾取し、バルバドス合意の違反を続けるのであれば、彼らが我が国の公正な裁きを受けることは避けられない。国家の資産を奪った泥棒はその報いを受ける必要がある」とコメントした。

なお、12月20日 バイデン政権とマドゥロ政権は両国で拘束されている囚人の交換取引を行った。

この取引について、マチャド氏は「自身も交渉に関与した」と理解できるようなメッセージを発信していた（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1003」](#)）。

また、1月1日には「マドゥロ政権との複雑な交渉を行っているが、私はベネズエラ国民の共通の利害のため全力を尽くす」と発言していた。

本件について、ロドリゲス国会議長は

「私は彼女と面識がない。彼女は交渉に参加したと言っているが、彼女が誰と交渉したのか具体的に質問して見るべきだろう。少なくともベネズエラ政府のグループと協議は行っていない」と述べた。

経済

「印 ベネズエラからコークス54.6万トン購入
～インドとベネズエラ エネルギー関係強化～」

エネルギー専門メディア「Argus」によると、インドのセメント業者が米国産・サウジアラビア産コークスの購入を減らし、ベネズエラ産コークスの調達を増やすことを検討しているという。

インドのセメント業者がベネズエラ産コークス購入の拡大を検討している理由の1つに、ベネズエラ産コークスには硫黄成分が少ないことが挙げられるとしている。

Argusによると、2023年1月～11月までにインドはベネズエラ産コークス54.6万トンを購入。

2022年通年ではインドはベネズエラから54.8万トンのコークスを購入していたという。

米国が石油産業への制裁を緩和したことを受けて、インドのセメント業者はベネズエラ産コークスの購入を増やすことを検討しており、既に制裁緩和以降、5回ベネズエラからコークスを購入しているという。

米国がベネズエラ石油産業への制裁を緩和して約1カ月後の11月21日、在ベネズエラ・インド大使がマドゥロ大統領と会談。

この3週間前には、インドの Hardeep Singh Puri エネルギー相が「ベネズエラから原油を購入する」と発言。

実際に23年12月には3年3か月ぶりにインド向けの原油輸出が計上されている（「ベネズエラ・トゥデイ No.1006」）。

「DESA ラ米・カリブ海の経済見通しを公表」

国連経済社会局（DESA）が公表した2024年のラテンアメリカ・カリブ海地域の経済見通しによると、ラテンアメリカ・カリブ海地域の経済成長率は前年比1.6%増。

2023年は同2.2%増を見込んでいたため、前年よりも経済成長が失速するとの見通しを示している。

経済失速の主な要因として、ラテンアメリカ諸国の経済大国であるブラジル、メキシコ、アルゼンチンの失速を挙げている。

DESAの予測によると、24年のブラジルの経済成長率は前年比1.6%増。前年の同3.1%増から失速することを見込んでいる。

メキシコは同2.3%増。こちらも前年の同3.5%増から失速すると予想。

アルゼンチンは同3.3%減。前年の同2.5%減から更なるマイナス成長を予見している。

逆にラテンアメリカ地域で経済成長が大きい国としてガイアナを挙げ、前年比25.3%増としている。

ガイアナに次いで、ドミニカ共和国とパナマが同4.2%増、パラグアイが同4%増、コスタリカが同3.7%増、ホンジュラスが3.3%増、グアテマラが3.1%増としている。ベネズエラについては、2.7%増と予想している。

経済制裁と原油価格にもよるが、個人的にはベネズエラの経済見通しについて、やや悲観的な見通しのように感じる。

Crecimiento estimado en LatAm y el Caribe para 2024

País	Estimado 2024	Estimado 2025
 Guyana	25,3	12,2
 Panamá	4,2	4,4
 R. Dominicana	4,2	4
 Paraguay	4	3,5
 Costa Rica	3,7	3,3
 Honduras	3,3	3,4
 Guatemala	3,1	3,5
 Uruguay	2,8	3
 Nicaragua	2,8	2,3
 Venezuela	2,7	2,8
 Ecuador	2,4	2,2
 Perú	2,3	2,5
 México	2,3	1,9
 Chile	2,2	2,1
 Cuba	2,2	1,9
 Colombia	1,7	2,8

(写真) DESA

“2024年、25年 ラ米・カリブ海の経済成長の大きな国上位16位”

社会

「新年 メリダ州ロープウェイが盛況」

ベネズエラ人は旅行好きが多いが、外国への旅行はお金がかかるため国内旅行が増えている。

新年の旅行先として国内観光地の1つメリダ州の人気が高まっており、世界で2番目に長いロープウェイとして知られるメリダ州の Mukumbari ロープウェイが盛況だという。



(写真) La Patilla

ロープウェイの搭乗料は、大人20ドル、子供・高齢者15ドル。全面ガラス張りの特別キャabinは1人70ドルとベネズエラ国民にとってはかなり高額だが、長蛇の列が出来ており、数時間待ちとなっていたという。

2024年1月6日～7日（土曜・日曜）

政治

「政治評論家の2024年の政治分析

～大統領選の前倒し実施は困難か～

以下では現地メディア「El Estímulo」が公表していた「マドゥロ政権は2024年後期に大統領選を実施すると言っているが、約束を守ると思うか？」との質問に対するベネズエラの政治評論家2024年の政治分析を紹介したい。

政治評論家の Luis Toty Medira 氏は

「間違いなく2024年に大統領選は行われるだろう。不確定な部分は、“どのような形で選挙が行われるか”という条件の部分である。与党は常に可能な限り有利な条件で選挙を実施しようとする。つまり、最も勝ちやすい日程を選ぶことだろう。

また、ベネズエラの有権者登録は問題が多いが、この問題はそこまで改善されないまま選挙を行うことになると考えている。

加えて、ベネズエラ政府・選挙当局・各省庁は、与党 PSUV 候補を勝たせるために公金を使用するだろう。」との見解を示した。

別の政治評論家 Carmen Beatriz Fernández 氏も

「憲法で定められた規則であることに加えて、国内外で選挙実施について強い圧力があるため、2024年に大統領選は行われる」と言及。

大統領選の日程について、「私が関係筋から得た情報によると、2024年6月末、10月中あるいは12月1週目の日曜日（つまり24年12月1日）に行われるだろう」と述べた。

また、アンドレスベジョ・カトリック大学の Benigno Alarcón 教授は、

「大統領選の実施日を早めることはないだろう。大統領選を行うためには一定の準備が必要だが、CNEは国民投票を実施したばかりで大統領選の準備は進んでおらず、大統領選を早めるような余裕はない。

また、国民投票は与党側が望むような結果にならなかった。与党は票を得るために選挙スキームを再検討する必要がある。」とコメントした。

経 済

「加 NSE 英投資会社株購入でベネ事業に参画」

カナダの「New Stratus Energy（以下 NSE）」は英領バージニア諸島を本社とする投資会社「GoldPillar International Fund SPC(以下 GoldPillar)」の株式50%を購入したと発表。

「GoldPillar」は、2010年にベネズエラ政府とキューバ政府の合意により発足した「Vencupet SA」の株式40%を保有している（残りの60%は PDVSA が保有）。

今回NSEがGoldPillarの株式を50%購入したことで、NSEはVencupet SAの株式20%を保有することになるという。

Vencupet SA は、アンソアテギ州・モナガス州の Adas 鉱区、Lido 鉱区、Limón 鉱区、Leona 鉱区、Oficina Norte 鉱区、Oficina Central 鉱区を開発する合弁会社だが、投資が止まっており実質的に稼働は停止状態にある。

NSEによると、今回の株式買収を機に GoldPillar を通じて Vencupet へ6, 580万ドルの融資を実行するという。この融資は原油により返済するスキームのようだ。

「墨 ベネズエラとのエネルギー関係強化を模索」

12月にメキシコのエネルギー会社 Pemex の統括ダイレクターとエネルギー秘書官がベネズエラを訪問し、PDVSA のテジェチェア石油相らと協議を行っていた（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1003](#)」）。

それから2週間後に今度はメキシコシティにて Pemex と PDVSA の代表が関係強化を目的とした協議を行ったと報じられている。同協議にはデルシー・ロドリゲス副大統領および両国の大使が出席していたという。

12月には PDVSA がクラサオ製油所と取引再開で合意。Repsol は PDVSA とベネズエラでの事業再開で合意しており、外国企業とベネズエラとの取引が本格的に再開しようとしている。

この流れを受けて、メキシコもベネズエラとエネルギー事業の関係強化を模索していると報じられている。

「ベネズエラ漁業 前年比13%増」

ファン・カルロス・ロジョ漁業養殖相は、2023年の水産業の収穫量について、24万4,171トンと発表。前年よりも13%増えたと説明した。

この24万4,171トンの収穫量のうち、約84%（約20.5万トン）は漁業、16%（約3.9万トン）は養殖だという。

特に漁業については前年比25%増と大きく増加。

品目としては、「イカ（3.8万トン）」「大型海藻類（596トン）」「ティラピア（27.4トン）」の収穫量が前年比で大きく増えたという。

また、輸出では「タコ」の輸出が前年比3946%増と著しく増加したという。

「電子商取引 24年目標は前年比100%増」

「ベネズエラ電子商取引商工会 (Cavecom)」の Richard Ujueta 代表は、「Union Radio」のインタビュー番組に出演。ベネズエラの電子商取引は4年連続で増加していると指摘。2024年については、前年比100%増（2倍）になるとの見通しを示した。

Ujueta 代表は、「2023年のベネズエラ経済は一般的には厳しい状況だったにも関わらず、電子商取引のマーケットは大きく成長した」と指摘。特に2023年第4四半期の電子商取引の販売額は前年比25%増だったという。

社 会

「プロ野球 乙坂智選手 ベネズエラでプレー」

筆者は野球に関してあまり知識がないため知らなかったが、日本人プロ野球選手で2012年～21年まで横浜 DeNA ベイスターズでプレーした乙坂智選手が、ベネズエラでプレーしている。

乙坂選手は2022年からベネズエラのプロ野球チーム「ブラボス・デ・マルガリータ」でプレーしており、優秀な成績を収めているという。

特に盗塁王として知られており、2022年は50試合に出場し、15盗塁。23年は52試合に出場し、17盗塁を記録したという。



（写真）Wikimedia

「カラカス 世界で3番目に危険な都市？」

米国コンサルタント会社「World Population Review」は、世界50都市の治安をランキング化して発表。

ベネズエラの首都カラカスは危険な都市として3位。ボリバル州のシウダ・グジャナは9位、同じくボリバル州のシウダ・ボリバルは10位となり、ワースト10都市の中に3都市が入るという不名誉な結果となった。

「World Population Review」はベネズエラの治安について、「政治不安」「犯罪の多さ」「誘拐リスク」などを踏まえて世界で最も危険な国の1つと分析。ベネズエラへの渡航、特にカラカスへの渡航を推奨しないとした。

なお、現地で殺人発生件数などを調査しているOVVは、23年の殺人発生件数は前年より大きく減少したとの結果を公表している（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1006」](#)）。

以上